『ジェミーと走る夏』

エイドリアン・フォゲリン／作　　千葉茂樹／訳
ポプラ社　2009

12 歳の少女・キャスの家の隣に引っ越してきた、黒人の少女・ジェミー。二人とも走ることが大好き。しかし、キャスのお父さんは黒人嫌いで、二人は会うことを許されません―白人と黒人の二人の少女とその家族の人種差別のお話です。

『夏の記者』

福田隆浩／著　　講談社　2010

新聞社の臨時特派員「夏の記者」に選ばれた小学 5 年生の佳代。記事を探していた佳代は、スポーツセンターのガラスに何者かがブロックを投げる事件と出会う。真相究明へと動き出した佳代だが、大人達は取材をやめさせようとする。

『びんの悪魔』

ロバート・ルイス・スティーブンソン／作　　磯良一／画
よしだみどり／訳　　福音館書店　2011

その小びんの中には、悪魔が閉じこめられていて、願いを叶えてくれるという。ただし、そのだいしょうとして、大切なものを失うことに…。びんを手放すためには、ある決まり事を守らなければいけない―宝島の作者が描く、背筋がぞっとする物語。

『あやかし草子　現代変化物語』

那須正幹／作　　タカタカヲリ／絵　　日本標準　2011

「来年こそ、向こうの島まで泳ぐぞ」毎年夏に、島へ遊びに来ていた、泳ぎの苦手な宗ちゃんは、今年、受験勉強で島に遊びに来られないという話だったが…（『約束』）―ズッコケ三人組シリーズの作者が、江戸時代の怪談集『雨月物語』を現代風にアレンジした、こわい短編集。

『世の中への扉　ヒット商品研究所へようこそ！「ガリガリ君」「瞬足」「青い鳥文庫」はこうして作られる』

こうやまのりお／著　　講談社　2011

だれもが知っているあの商品は、どのように開発され、大ヒットしたのか？身近な物から、商品開発・ヒットのコツのひみつにせまる！―あきらめないことや、ひらめきの大切さもつまった、とても夢のある本です。

もう1さつ

「あまり　本を　よまないなー」
そんな人は、感想文の本のほかに
もう１さつ本をよんでみる、いいきかい。
「本　だーいすき！」
そんな人は、1さつでも多く本をよむ、いいきかい。

このブックリストでは、この 3 年かんに出た
夏にぴったりの本をごしょうかいします。

みなさん、
夏休みにあと
“もう1さつ”
本をよんでみませんか？

すてきな本にであえたこと。
きっと 夏休みのいい 思い出になりますよ！

2012 年 7 月発行

宮崎県立図書館　こどもしつ
でんわ（０９８５）２９－２５９６

このブックリストは出版社の許可を得て表紙を掲載しています。

『へーい、まいど！てんぐやです』

仲井英之／作　小松良佳／絵　ポプラ社　2009

なつやすみの ある日、いもうとと おばあちゃんと おるすばんを していると、おおきな かばんを もった てんぐが やってきました。「へーい、まいど！てんぐやです。」いったい なにを うりに きたのかな？

『ふねにのっていきたいね』

長崎夏海／作　おくはらゆめ／絵　ポプラ社　2010

おきのえらぶ島（じま）に すむ 女の子・ありさは、おとうさんと いっしょに はじめて ふねに のって おきなわへ いくことに なりました。ありさは ふねの 中で とうきょうから きた ももかちゃんという 女の子に であいます。どきどき、わくわくが いっぱいの おはなしです。

『はじめてのゆうき』

そうまこうへい／作　タムラフキコ／絵　小峰書店　2010

うれしかったときや おこるときに 岡山弁（おかやまべん）に なってしまう おとうさんが、としおは だいすきだ。なんでも おとうさんには はなしていた としおだが、このあいだから かくしていることが ある。なかまはずれに されていることだ。

『にんぎょのいちごゼリー』

末吉暁子／作　黒井健／絵　フレーベル館　2011

にんぎょの チッチが つくるのは、あおい うみの いろをした うみいちごの ゼリー。ゼリーの うわさが ひろまって、たくさんの にんげんが チッチの いえに おしかけて くるようになったので、チッチは 大いそがしです。

『赤ちゃんおばけベロンカ』

クリスティーネ・ネストリンガー／作　フランツィスカ・ビアマン／絵
若松宣子／訳　偕成社　2011

ヨッシーは、いもうとに こわい きもちを おしえるため、おばけを つくることに しました。でも うまくできず、いらいらして「バーベロンベロンカ！」と大ごえで 3かい いったとたん、「やあ！」おばけが 口を きいたのです。

『女王さまがおまちかね』

菅野雪虫／作　うっけ／絵　ポプラ社　2011

世界中で人気作家が行方不明に…そこには「女王さま」というなぞの人物が関わっている？！読書が好き（でも読書感想文は苦手…）な少女・ゆいが、クールな現と元気いっぱいの荒太、二人の少年と共に事件に立ち向かう！本や図書館が登場するファンタジー物語です。

『狛犬（こまいぬ）「あ」の話』

柏葉幸子／作　安藤貴代子／絵　講談社　2011

夏休み、「子どものころ、昔話に出てくるふしぎなものと友だちになった」というおばあちゃんの家へ遊びにきた瞳子（とうこ）は、狛犬「あ」と共に、数百年に一度、子どもをさらおうとするおばけ蜘蛛（ぐも）「雨ふらし」の悪さを止めに行くことになった—柏葉幸子さんは、現実世界からはじまるふしぎなファンタジーをえがく作家。『霧のむこうのふしぎな町』は、映画『千と千尋の神隠し』の原点にもなりました。

『盆まねき』

富安陽子／作　高橋和枝／絵　偕成社　2011

なっちゃんたち家族は、毎年お盆になると、おじいちゃん、おばあちゃんの住んでいる笛吹山にいきます。なっちゃんが、お盆の間におじいちゃんたちから聞いた、ふしぎなお話。そのあと、なっちゃん自身がふしぎな体験をすることに！

『パンプキン！　模擬原爆（もぎげんばく）の夏』

令丈ヒロ子／作　宮尾和孝／絵　講談社　2011

東京から、いとこのたくみがやってきた。模擬原子爆弾、別名パンプキン爆弾のことを熱心に調べているようだけど…。最初はきょう味がなかったヒロカ。調べていくうちに、夏休みの自由研究で発表するまでに。パンプキンって、一体？

『ぼくとおじちゃんとハルの森』

山末やすえ／作　大野八生／画　くもん出版　2012

なかよしの友達が転校して以来、クラスではひとりぼっちの輝矢と、腕がいいのに、急に大工をやめ、山小屋に住むというモリおじちゃん。おじちゃんにつれられて山小屋へ行くと、そこには一匹の犬がいた。